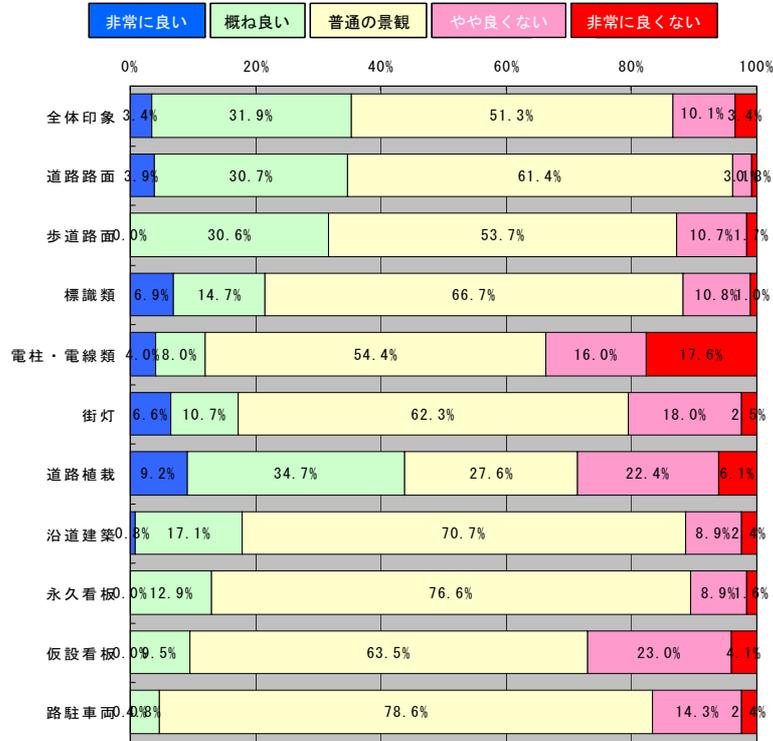


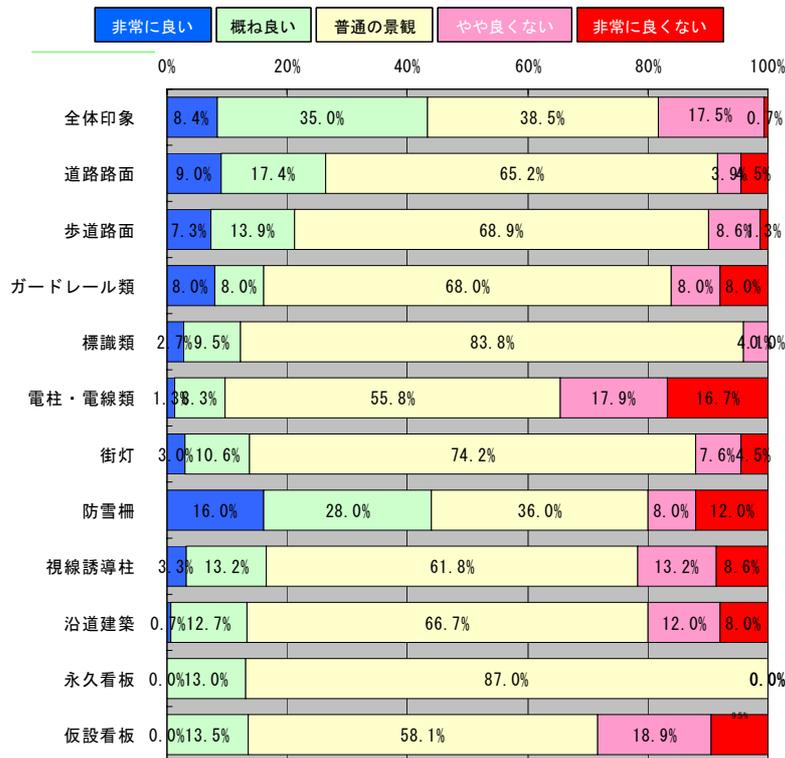
(3) 調査結果 (参考)

市街地や田園地域の全体印象としては、「良い」評価が多いものの、「非常に良い」は少ない。各要素別では、電線・電柱類や道路標識、仮設看板などで、「良くない」と評価されている。

①市街地



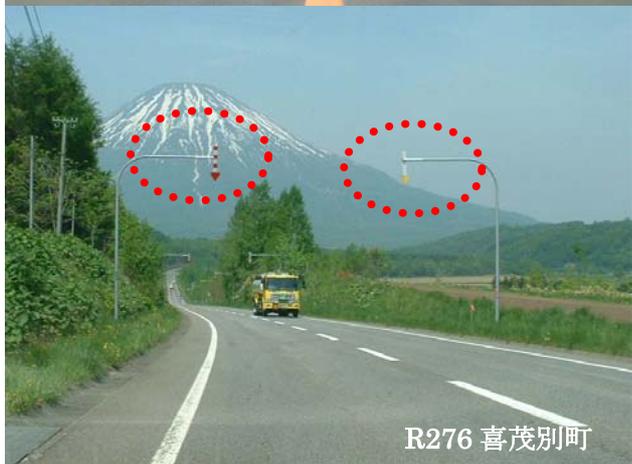
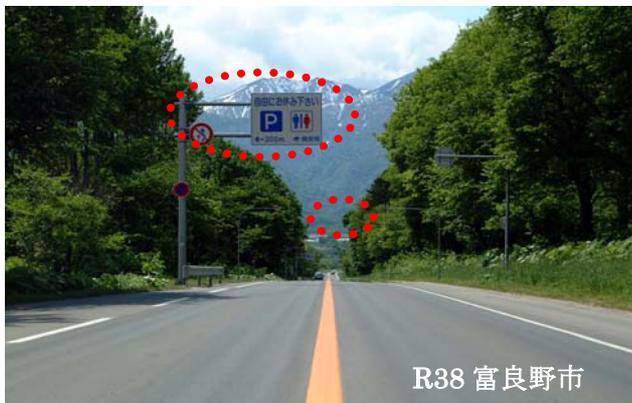
②田園地域



2. 矢羽根の一時撤去事業について

(1) 事業の概要

平成15年6月の「美しい国づくり政策大綱」に基づいて、北海道内の国道において、特に、景観に配慮すべき区間を対象として、観光期となる夏期に視線誘導標（矢羽根）を一時撤去した。撤去期間は6月末から11月初旬まで、景観のよい国道沿線5カ所で合計116本の矢羽根を一時的に撤去しました。



実施前

実施後

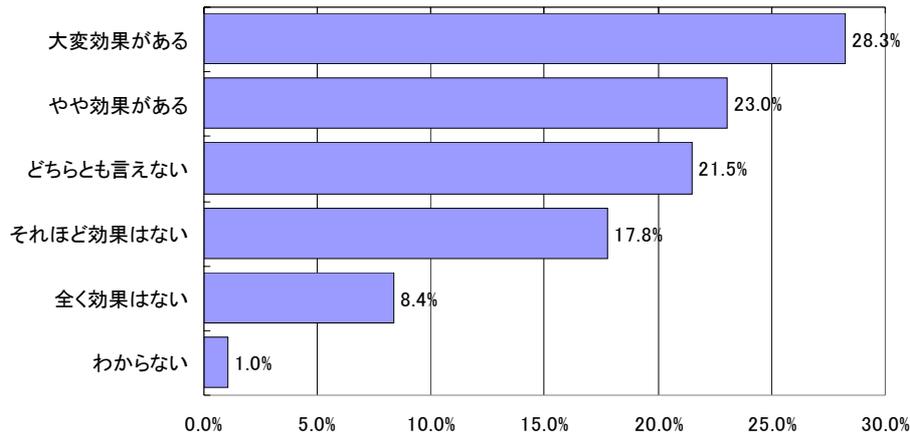
(2) 当事業に対する利用者の声（アンケート結果）

① アンケート対象者

- ・バス事業関係者（運転手およびバスガイド）へのアンケート
回答者 36人
- ・シーニックバイウエイ北海道ホームページでのアンケート
回答者 155人
合計 191人
(内北海道内居住者 90%)

②アンケート結果

回答者全体の 51%の人が「効果がある」と答え、「効果はない」と答えた人の 26%を上回っている。



～矢羽根一次撤去事業の改善点～

●交通安全を最優先に

効果は評価しますが、交通安全上必要な場合もあり、何でも撤去するだけではなく、景観になじむデザインや設置間隔の適正化といった改善も必要

●費用対効果を考える

設置および撤去にかかる費用の低廉化に努めること。また費用に見合うような景観改善効果が得られるような事業箇所の適切な選択が必要

●矢羽根は北海道らしい景観要素

特に、北海道外の旅行者は、矢羽根は北海道らしい景観要素として認識しているという意見も多い。また場合によっては北海道らしい景観資源としての価値も考えられる。

●矢羽根だけでは効果がうすく、他の景観障害物改善との連携を

矢羽根だけではなく、商業用広告看板や電柱・電線、ゴミ捨て場などの撤去や改善を合わせて行っていないと、景観改善効果は低いものとなる

道路管理者が行う標識や吹雪対策の防雪柵よりも、電柱類、廃屋・廃車、商業広告看板、工場・ゴミ捨て場を景観を悪くしている要因と考えている人が 25 ポイント以上多くなっている。沿道景観を良くしていくためには、道路管理者だけではなく、他の事業者や地域住民との連携が不可欠と考えられる。

